

## 【解答づくりのための方針】

設問1「道徳の教科化」、2「教育委員会制度の見直し」とともに近年の教育改革の中で様々な議論が交わされてきた話題であり、現状をどのようにとらえるか、またどのような立場から論じるかで意見が異なる難しい問題です。

仮にこの設問が個々の私立学校での小論文の問題として出題されていたとしたら、建学の理念や創立者の思想などを意識して解答するのも一つの手かもしれません。しかし、ここではあくまでも様々な私立学校が共通に利用する適性検査だということを踏まえることが前提となります。

つまり、自分の立場や意見を述べるよりも、客観的に論じた方がよいということです。そのためには、正攻法で、「現状はどうか」「どのような解決策が示されたのか」「実現にあたっての課題は何か」という流れで「あなたがどう理解しているのか」という問いに答えるのがふさわしいということです。

この問題では、「意見」ではなく「理解」を問われているのだとわかれば、奇をてらうことなく冷静に、それまでの学習成果をまとめればよいということになります。300字という条件では、「はじめ（現状）」、「なか（解決策）」、「おわり（課題）」という構成が適切でしょう。どちらの話題で答えるかを選んだら、知っているトピックを書き出して、まず構想のメモをつくり、下書きするようにしましょう。

流れがきちんと見えて、まとめられれば小論文（というには短い、長めの記述問題）の解答が完成するはずです。

なお、教育再生実行会議の提言については、重要な内容が多いので、ぜひ<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/teigen.html>を参照してください。「道徳の教科化」については第一次提言で、「教育委員会制度の見直し」については第二次提言で述べられています。

## 【解答例】

### 1 道徳の教科化

いじめにまつわる事件を契機として、「道徳の教科化」が打ち出された。小・中学校で週1時間の「道徳の時間」を柱に学校全体で取り組まれてきた道徳教育であるが、教科化でさらに充実を図るのが目的とされる。

教科書は作成するが点数での評価は行わず、教員免許も新設しないなど「特別な教科」として考えられていて、従来の知育偏重の教育が見直されるのは確かだろう。しかし、一律の実施でこれまで工夫されてきた実践が形骸化しないか、子供の「先生の好みに合わせた使い分け」を助長しないかなどの懸念も示されている。

こうした課題を克服するためには、子供たちが自ら考え、自分の立場を選んでいくという実践の創造が不可欠である。

(295文字)

## 2 教育委員会制度の見直し

過去の教育委員会制度では、自治体首長任命の教育長と、教育委員長とが別に存在し、二重構造となっていた。そのため教育行政を担う責任の所在があいまいで、教育施策の速やかな実施の弊害となっていた。

そこで、教育委員長と教育長を兼務として一元化し、さらに首長が招集する総合教育会議を創設し、臨機応変な対応を可能とした。これにより意思決定や施策実現の迅速化が図られ、不透明な教育委員会の問題が改善されて公開の総合教育会議では民意の反映がされやすくなった。

しかし、教育行政へのチェック機能の低下や少数意見の軽視につながらないかとの危惧もある。幅広く意見を募り、教育問題の解決にあたる新制度の運用が求められる。

(296 文字)